

競 技 注 意 事 項

- 1 (1) 本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。
 (2) 競技規則 TR5.2 に適合しないシューズの使用は認めない。ただし、フィールド競技用シューズについては適用を除外する。

2 練習について

- (1) 練習は補助競技場（サブトラック）を使用すること。但し、投てき練習は一切禁止する。フィールド種目の練習は、招集完了後競技役員の手配により競技場内で行う。
 (2) 本競技場内での朝の練習時間は、開門～放送等で指示された時間までとする。

3 招集について

- (1) 招集所は、バックスタンド南側サブトラックへの通路に設ける。
 (2) 各種目の招集開始時刻・招集完了時刻はその競技の開始時刻を基準とする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技	競技開始40分前 (棒高跳のみ70分前)	競技開始30分前 (棒高跳のみ60分前)

(3) 招集の手順

- ① 招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受け、その際アスリートビブス・腰ナンバー・スパイクの点検を受ける。腰ナンバーカードは各校で用意する。なお1500m以上の種目及び競歩種目は招集の時に競技者係から配られる。
 ② 最終点呼の代理人は認めない。ただし2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人が最初の競技の点呼の際に競技者係に申し出ること。
 ③ 混成競技については、第1日目第一種目、第2日目第一種目と最終種目は招集所で点呼を受ける。他の種目は現地集合(競技開始20分前)とする。
 ④ オーダー用紙は競技者係に提出する。(第1組目の招集完了時刻の2時間前から1時間前まで)

- 4 アスリートビブスは胸部・背部ともにしっかりと付けること。腰ナンバーは定められたレーンの番号布を右腰や後部に付けること。

5 競技について

- (1) レーン、試技はプログラムの記載の番号順とする。準決勝以降の組み合わせ(レーン順・試技順)はすべて番組編成員が公平に抽選して招集所に掲示する。

- (2) トラック競技で同記録の場合、予選・準決勝は抽選を行う。

- (3) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、下記のとおりとする。

(走高跳)	男子：1m50(練習)1m55－1m60－1m65…1m80	以降	3cmきざみ
	女子：1m20(練習)1m25－1m30－1m35…1m50	以降	3cmきざみ
	混成男子：1m25(練習)1m30－1m35－1m40…1m60	以降	3cmきざみ
	混成女子：1m00(練習)1m05－1m10－1m15…1m40	以降	3cmきざみ
(棒高跳)	男子 2m50(練習)2m60－2m80－3m00	以降	10cmきざみ
	女子 1m90(練習)2m00－2m10－2m20－2m30	全て	10cmきざみ

- (4) フィールド競技の決勝での計測記録は次のとおりとする。(変更の可能性あり)

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	やり投
男子	5m00	11m00	9m00	23m00	35m00
女子	4m00	10m00	7m00	23m00	23m00

6 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール、やり以外の競技用具は競技場備え付けのものを使用する。
 (2) 棒高跳用ポールは自己のポールを使用する。
 (3) やりは検査をうけて自己のやりを使用する。検査は競技場南器具庫前で競技開始1時間30分前から10分間おこなう。

7 その他

- (1) 各種目3位までの入賞者は、表彰状を本部まで取りに来ること。(種目別表彰は行わない)
 (2) 投てき練習は、審判員の指示により競技場内でおこなうこと。
 (3) 貴重品は各校各自で管理し、盗難には十分に注意すること。
 (4) 各学校の使用した場所は清掃に努め、ゴミは各自持ち帰りとする。
 (5) 参加者はマスクを着用すること。選手は運動(競技・アップ・ダウン)以外の場面ではマスクを着用すること。
 (6) 選手は競技前、競技後の手洗い、手指消毒の徹底に努めること。
 (7) 選手は更衣室の滞在を短時間にする。なお、シャワーの使用は禁止する。